令和６年度　日本大学危機管理学部　個人研究費　研究実績報告書

所属： 危機管理学部　危機管理学科
資格： 教授
氏名： 福田　充

研究課題名	オールハザード・アプローチによる危機管理学に関する実証研究
研究目的及び研究概要	「危機管理学」を構成する4つの機能は，①インテリジェンス，②セキュリティ，③ロジステイクス，④リスクコミュニケーションである。この4つの機能はあらゆる危機にあてはまる普遍的な機能といえる。かつての「安全保障」が政治や軍事に特化されていた時代と異なり，食料安全保障やエネルギー安全保障を含む経済安全保障や，情報の安全保障など多様化しているように，現代の危機管理学にも「オールハザード・アプローチ」が求められている。自然災害，大規模事故，テロリズム，戦争紛争，サイバー攻撃，感染症パンデミックなど多様な危機に対して，それら危機を予防するためのリスクマネジメントの政策のひとつとして，社会教育や政策立案，合意形成にいたる民主主義的な過程を伴ったリベラルな危機管理学が求められている。このオールハザード・アプローチのための危機管理学を構築するための理論的検討を第一に行う。そのために専門的な先行研究となる論文・図書を収集し，理論的な考察を行う。
研究実績の概要 研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等	【研究の進捗状況】 危機管理学のオールハザード・アプローチについての研究は概ね順調に進めることができており，理論的側面においては成果が得られている。 しかしながら，今年度はアンケート調査などの社会調査による実証研究を実施することが困難な状況にあり，この点が今後の課題である。 【研究実績等】 ●論文 福田充（2025）「能登半島地震における災害対策の諸問題」『危機管理学研究』，日本大学危機管理学研究所，第9号，pp.6-18. 福田充（2025）「自治体のための『危機管理学』のすすめ」『月刊自治』，地方自治制度研究会，No.929，pp.2-18. 福田充（2024）「危機を乗り越えるためのリスクコミュニケーションと自治体の課題」『月刊自治研』，vol.66，no.774，pp.51-56. ●研究発表・講演等 福田充（2025）「危機管理のオールハザード・アプローチ」『立憲民主党・神奈川県連・災害緊急事態局・講演会』2025年2月22日。 福田充（2024）「防災と復興のリスクコミュニケーション」『能登半島復興支援セミナー』（公益社団法人大学コンソーシアム石川，2024年11月28日。 福田充（2024）「オールハザード・アプローチに基づく危機管理とリスクコミュニケーション」『令和６年度　管理職のためのクライシス・コミュニケーション～危機に直面したときの適切な情報発信～』（全国市町村国際文化研修所）2024年8月5日。